令和 7 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 都南太陽荘（鈴蘭ユニット）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0370101917		
法人名	有限会社 快互		
事業所名	グループホーム 都南太陽荘（鈴蘭ユニット）		
所在地	〒028-0838 盛岡市津志田中央2-3-20		
自己評価作成日	令和7年6月15日	評価結果市町村受理日	令和7年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

2ユニットに分かれて介護業務に当たっている。2ユニットあるが職員、利用者を自由に交流されている為、両ユニットでコミュニケーションも充分に取れている為、両ユニットでコミュニケーションも取れている。日々の申し送り業務の中で各ユニットの様子を共有する事で互いに協力し日々業務を行っている。時期になれば荘の中庭で草花や野菜の種や苗を植え、育て利用者と一緒に成長具合を楽しんでいる。収穫した野菜は食事に使用し季節を感じていただけるように心掛けている。夜間待機者の確保AED設置、避難訓練など緊急時の素早い対応に的確な連絡が行えるよう対応にも日々配慮している。又、医療の連絡体制にも気を配り日々業務を行っている。ご家族様への連絡、日々の様子を共有出来るようコミュニケーションや馴染みの関係が出来るよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

国道4号線の南インター入口交差点近くの住宅地に鉄筋造りのしっかりした建物で立地された2ユニットのグループホームである。「秋桜」、「鈴蘭」の両ユニットとも利用者の多くが要介護3以下で、職員は、利用者が自分の思いや希望を大切にしながら自立心を持って生活できるよう支援している。両ユニットは、玄関ホールやキッチンで繋がっており、合同での行事の取り組みなどを通じて利用者同士が交流する機会も多い。「秋桜」ユニットでは、欠員となっている職員の補充採用が進まず、利用者一人ひとりに向き合う時間が少なくなっており、また、外出支援も十分に取り組めていないとしているが、管理者とケアマネは、「鈴蘭」ユニットの管理者・ケアマネとグループホーム運営や介護支援の考え方を共有しながら職員を先導し、両ユニットの職員同士も連携、協力して日々の介護支援に当たっている。利用者と職員が談笑する様子も見られ、グループホーム全体は明るく、フレンドリーな雰囲気に包まれている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 都南太陽荘（鈴蘭ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	利用者様一人ひとりが日々の生活にメリハリをつけつつ生き生きと生活が出来るよう荘内はもちろんの事、地域とのつながりにも常に意識し心掛けている。日々介護の理念を朝の申し送り時に唱和し日々の業務にて実践に心掛けている。	現在の両ユニットの管理者は、法人（会社）の理念等がいつ誰により定められたか承知していないが、開設当初からのものではないかとしている。グループホームとして定めている理念（職員としての介護支援の心構え）を両ユニットの合同ミーティングで毎回唱和し、介護支援者としての意識を高めるよう努めている。	ミーティングで理念等を唱和し、意識の共有と自らの仕事の振り返りを行っていますが、グループホームの理念に掲げる6つのキーワード「和・輪・笑・私・話・技」をもとに、職員と利用者が日々一緒に取り組むことのできる生活目標を具体的に定め、一人ひとりのケアプランにも反映させながら、理念の実践に取り組むことが期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会への加入、広報紙の回覧にて情報発信に努めている。運営推進協議会には自治会長、民生委員、その他ボランティアの方々にも出席していただいている。最近では児童センターの子供達との交流を取り入れている。	町内会（ひばり自治会）との交流により地域と繋がりを持ってきたが、運営推進会議のメンバーでもある自治会長が病気になり、現在は自治会との交流の機会は減少している。同じく運営推進会議メンバーの傾聴ボランティア以外の地域ボランティアについても高齢化が進み、最近は交流が減ってきている。このような中でも、地域の子ども会や児童センターの子ども達が来訪し、歌や踊りで利用者と交流してくれる。地域の方々との繋がりをコロナ以前に回復するよう取り組みたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近年はコロナ対応にて実施できていないが「おひさまさんカフェ」を年4回実施しグループホームについての理解を深め、また家族会、介護の日の行事に近隣の方々への参加の声掛けをし、更に理解を深めていただけるよう、努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、年6回開催し、様々な問題や議題を提案し、共に話し合いをしている。議事録は回覧し更なるサービスの向上につながる様努めている。又会議を行う事で多くの意見、情報に耳を傾け活かす努力をしている。	運営推進会議は、自治会長が病欠になっているが、警察、消防関係者、傾聴ボランティアも含め、多様なメンバーで構成されている。利用者の状況、行事計画、事故やヒヤハット事例、身体拘束廃止委員会の活動、感染症対策等、グループホームの運営状況を報告し、理解と協力を得ている。今後は、これらの報告等に加え、具体的な取り組み目標や運営課題をテーマに取り上げ、外部の意見や提案を得るようにしたいとしている。	

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 7 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 都南太陽荘（鈴蘭ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進協議会に市の担当者を招き互いに情報交換に努めている。様々な点で分からない場合は窓口や電話等で相談し意見を伺い、スムーズな運営に努めている。	市の介護保険課とは、担当者に運営推進会議のメンバーとして毎回出席してもらう他、主としてメールのやり取りで連携を図っており、制度の不明点や疑問点を適時に照会できる関係にある。現在、職員不足解消に向け、求人等の情報提供や助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関するテーマで内部研修を行い職員全員が正しく理解する様に努めている。玄関の施錠は夜間のみ行い、帰宅願望で外に出ようとされる利用者様には声掛けを行い気分転換していただいている。夜間のセンサー等はOFFの時間を設け、安心、安全な生活をこころがけている。	両ユニット合同で職員全員による「身体拘束適正委員会」を3ヵ月毎に開催し、緊急やむを得ない拘束の要件、身体拘束や行動制限に当たる行為等を確認、共有しながら、身体拘束ゼロのケアを実践している。また、委員会の開催に合わせ、年2回は「言葉による拘束」への配慮や尊厳のあるケア等について研修を行っている。	身体拘束の適正化に向けたグループホームの基本的姿勢や対応の考え方を「重要事項説明書」に記載し、利用開始時に利用者、家族に明確に示すとともに、機会ある毎に、家族に説明し、理解と協力を得ていくことが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	可能な限り研修には参加をしている。日頃の利用者様に対する態度や声掛けに注意し職員全体の会議やカンファレンスにてケアの方法について話し合い、支援に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	対象になる利用者様が居る場合はもちろん全体会議やカンファレンスで説明を行っており、いつでも誰でも対応出来る様に学ぶ機械を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時にはご家族様にしっかりと理解していただけるように時間をかけゆっくり説明し納得していただいている。退居時にも経過を説明、理解いただくよう努めている。改定時には文書等で送付し、面会等で来荘された際に説明し、充分な理解をいただけるようすすめている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 7 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 都南太陽荘（鈴蘭ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様自身ご家族様の意見や要望等を面会等の際に直接お聞きしたりする様に努めている。運営推進協議会やその他の行事の際に可能な限り民生委員等第三者の意見を取り入れながら進めている。	利用者からは、外出の要望が多く出されるが、職員体制等から十分応えられていない状況にある。体調、精神面、受診等の状況をまとめた「健康相談表」に居室担当者のコメントを添え、毎月、お便りとして家族に送付している。運営推進会議に出席の家族代表からは、職員と家族の繋がりを大切にする取り組みを考えて欲しいとの要望があり、先ずは、お便りの内容を充実したいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日のミーティングやユニットのカンファレンス、リーダー会議、全体会議はもちろん、日々の業務の中での意見や提案に対し報告や幹部会等で話し合い代表者に職員の声が届きスムーズな運営となる様努めている。	各ユニット会議や月1回の全体会議では、職員から要望や提案がよく出され、水道の排水溝の修理や西日対策など、自分達で改善できることに積極的に取り組んでいる。代表者（社長）は、月1回の両ユニット合同の全体会議に出席し、職員の意見を聴きながら、勤務の状況や健康保持等に気配りや配慮をしてくれる。両ユニットの管理者は、年1回、職員と個別面談の機会を設け、個々の要望や仕事上の悩みなどを把握し、働きやすい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々の日々の積み重ねの努力や工夫、勤務状況を評価し実績向上に結び付けている。ここにあtった勤務状況になる様職場環境を整えやりがいや向上心を持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の体調や勤務態度に変化が見られた時は速やかに面談を実施し勤務環境に配慮している。毎月の内部研修を活用し職員の仕事のスキル向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナの影響もあり外部の研修や交流する機会はなかなか得られず。同じ事業所内での意見交換する機会を持ち、情報交換を行い様々な考えを吸収し実践しながら業務の効率化やサービスの質の向上に努めている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 7 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 都南太陽荘（鈴蘭ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の身体、精神状況を把握し面談の際には話をしやすい雰囲気を作るように心掛けている。不安や願望を伺い希望に添えるよう関わり方を努力、工夫をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	なるべく細かくわかりやすい様に説明しながら施設内を見学して頂き不安、不明な点や要望に対し的確な情報を共有している。ご本人、ごかぞくの了解を得ながら支援し、必要時には他のサービスについても情報を提供し、助言している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様の精神状況等に考慮し最も最適な提案が出来るように情報を共有している。ご本人、ご家族の了解を得ながら支援し、必要時には他のサービスについても情報を提供し、助言している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	1人1人に対し思いやりと感謝の気持ちを忘れず、個性や能力を活かせる様、日常生活を送る上での役割を持てるような支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様には定期的に利用者の状況や様子を報告し、緊急時にはすぐに連絡を取り、互いに協力しあえるように努めている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 7 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 都南太陽荘（鈴蘭ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナの感染への不安から、ご本人の希望を叶えることが難しい場面が増えて来ている。又、ご本人の認知症の進行、ADLの低下で外出する事も厳しくなっているが、玄関先での面会や希望時には電話で話が出来るように支援している。	家族以外の友人、知人との交流は少なくなったが、スマホのラインやメールで友人とやり取りしている男性利用者もいる。両ユニットは左右対称で玄関ホールやスタッフルームを行き来できるようになっており、合同の行事もあることから、入居後のお馴染みさんとして相互に交流している。また、定期に来所してくれる訪問マッサージ師や美容師とも馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	1人1人の性格や好み、相性、身体や精神状況を把握し、談笑やレク活動をしやすい様に席の配置を考え、考慮している。状況に合わせ、職員が間に入りコミュニケーションの共有をするように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	次の施設に入居された後でも相談を受け入れている事をお伝えし、退居後の様子など、ご家族様と情報の交換等を行い、関係を保てるよう取り組んでいる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の介助や関りの中からご本人の思いを汲み取り個別ケアに取り組んでいる。24時間シートやモニタリング記録等を活用し情報の収集を行い、申し送り等で共有してケアに活用している。	利用者の多くは自ら思いや意向を伝えてくれる。意思表示の難しい人には、自分で決められるよう選択してもらえる問いかけを行っている。本人の意向や希望を大切にしながら、野菜づくりと収穫、洗濯物の整理、新聞の管理等、役割を持って生活してもらえるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日々の様子やご家族様等から得た情報を参考にご本人様ともコミュニケーションを取り、それまでの生活スタイルを取り入れた生活が施設でも出来る様なケア支援を行うよう努めている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 7 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 都南太陽荘（鈴蘭ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の記録を細かく行い、少しの状況変化等がある際には職員同士で話し合い、情報の共有をし、ひとりひとりの良い暮らしを考えながら支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様、ご家族様の意向を知り、又日々の生活の中で得た情報を元に、職員同士で意見を出し合いカンファレンスを実施している。ケアプンを作成した後も状況の把握に努めミニカンファ等も行いながら3ヶ月毎の評価の見直しをユニット職員全員で行っている。	計画策定担当者が開始時に事前資料や収集した情報により作成した暫定のケアプランをもとに利用者の状況や家族の意向も再確認しながら見直しを行い、正式のプランとしている。毎月、職員会議に引き続きカンファレンス会議を開き、計画作成担当者が作成するモニタリング資料によりプランの実践状況について職員で話し合い、評価を行っている。ケアプランは、職員に加え家族の役割も明記しており、短期目標3ヵ月、長期目標6ヵ月で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録の他、日常の小さな変化や気になる事もモニタリング記録を行うよう心掛けており状況に応じて相談し、様々な方法を考えケアに取りくんでいる。そして得た情報をもとに結果や支援方法の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	これまで施設内で行って来たケアのみならず、ご本人様の特性や意向を取り入れ柔軟な支援を行えるように努めている。医療連携体制も取り入れるようにし、より多機能なサービスが出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナの影響により今はほとんど行われていないが、以前は行事や日々の暮らしの中で自治会長や民生委員の方、傾聴ボランティア、草取りボランティアの方々との交流を通して毎日が楽しく生き生きと過ごしていただけるように支援に努めている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 7 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 都南太陽荘（鈴蘭ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	可能な限りご本人様とご家族様の希望に添って、かかりつけ医の受診を支援している。ご家族様の了解のもと必要に応じて他の医療機関への受診も支援している。	入居前のかかりつけ医又はグループホームの協力医を受診している利用者は半々になっている。訪問診療により受診している人も2人いる。通院は家族の付き添いをお願いしているが、職員の同行が増えて来ており、グループホームでの生活の様子や体調を伝えるなど主治医との連携を密にしている。眼科、皮膚科等の特定診療の受診も職員が同行している。週1回来所する訪問看護ステーションの看護師から利用者の体調管理について助言や指導を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者一人ひとりの疾患や症状、特徴、内服薬や平均的なバイタル測定値の把握に努め、常に荘内の看護師とコミュニケーションを図り利用者の状態に少しの変化が発生した場合は、訪看とも相談し適切な対処に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へ情報提供をしながら連絡を取り合っている。可能な範囲で職員による面談を通して状況把握に努めて早期退院に向けた対応を行っている。また、訪看やかかりつけ医にも報告し、助言をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者が入院、終末期の状態となった場合、ご本人やご家族の考えや思いを尊重しつつ、その旨を医師に伝え、理解を得た上で、出来るだけ思いに添える様な支援に努めている。	グループホームの職員体制から重度化や終末期への対応が難しいとしており、重度化が進み既存設備での対応が難しくなった場合、医療的ケアが必要になった場合、さらには看取りの時期が近づいてきた場合には、病院や特養等の施設への入院、入所を支援することを利用開始時に本人、家族に説明し、理解を得ている。現在は重度化、終末期の対象となる利用者はいないが、定期的に家族と話し合い、状況の変化に対応して適切に支援できるよう取り組んでいる。今後、利用者の高齢化、重度化への対応に向け、ターミナルケアの研修を充実させたいとしている。	

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 7 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 都南太陽荘（鈴蘭ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に救命救急講習を実施しAED操作方法や応急処置の方法、日常的に注意する事など職員間での周知徹底に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に職員と利用者が一緒になり訓練を行い、その都度出る課題やスムーズな避難の方法を確認しあっている。結果は運営推進協議会等で地域の方にも報告し助言や理解をいただけるように努めている。	ユニット合同で夜間想定も含め春秋の2回の火災避難訓練の他、水害想定避難訓練を実施し、消防署から助言、指導も得ている。お風呂（灯油）以外はオール電化で火を使うことはない。スプリンクラーも設置している。水害の際は2階の会議室等への垂直避難を基本としている。職員は訓練を通じて災害時の避難方法を共有している。地域、近隣への協力依頼は特に行っていない。3日分の水、米、副菜等を備蓄している。	年2回の定期訓練に加え月1回は運動も兼ねたミニ避難訓練を実施することや、避難場所に指定されている地域児童館、公民館への誘導避難の機会を設けることを期待します。また、災害等有事の際には、近隣の協力を必要とする場合もあり、地域や近隣との日常的な協力、連携のあり方について運営推進会議で話し合うことが望まれるところです。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	丁寧な言葉遣いと穏やかな口調で接する様に心掛けて内部研修でも定期的に接遇について取り上げている。プライバシーにかかわる内容の会話や介助が必要な場合には接する場所を買えたり声の大きさ、トーンにも注意している。	職員は、何度も繰り返すお話を「傾聴する」ことを心がけ、利用者の希望ややりたいことを受容し、支援することを通じて一人ひとりの尊厳を大切にしている。また、本人が嫌がる話題は皆の前に持ち出さないよう気配りをしている。個人情報はパソコン管理とし、USBでの外部への持ち出しは禁止としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々のコミュニケーションの中で可能な限り希望に添えられるように努めている。言葉で伝えるのが難しい方や苦手な方に対しては表情、仕草から思いを汲み取ったり選択肢を用意し意思表示が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用差様が好きな事、やりたいこと、出来る事は何かと言った把握に努め、1人1人に合わせたレク活動を提供して生活を楽しんでいただけるように支援している。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 7 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 都南太陽荘（鈴蘭ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	基本的にはご自身で自由に選んで着用していただいている。迷っていたり、自分で選ぶことが難しい方には季節を考慮し、助言や見守り支援している。不足している衣類があればご家族様へ連絡し持参していただくように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	行事食を含め季節の食材も出来る限り活用するように心がけている。コロナが流行してからは調理に参加していただく事はほとんど吐くなったが食器拭きやお膳拭きのお手伝いは継続している。1人1人の好みや食べやすさを考え可能な限り対応している。	献立は、食材納入業者が1ヵ月分を作成し、ユニット合同で当番に当たる職員が協力して3食分を調理している。食事介助を必要とする利用者はおらず、3、4人で一つのテーブルを囲み職員も一緒に加わって楽しい食事になっている。敬老会や誕生会には、外注の特別食やケーキを用意している。お手伝いは、ユニット毎に、3、4人が自発的に食器拭きや後片付けを手伝っており、「当番表」の作成は止めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食毎に食事、水分摂取量を記録し、不足気味の方には、定時以外にも水分を提供し脱水の予防に努めている。体重の増減に合わせ食事量の調整、食器の工夫（ワンプレート等）などを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	可能な限り、ご自身での口腔ケアを進めており、見守り、声掛け、一部介助等を行っている。週一回口腔ケアセットの消毒をし、歯ブラシは古くなったら新しいものと交換し、清潔を心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	利用者1人1人に合わせた排泄介助が行えるよう個々の排泄パターンを把握し、その傾向から、トイレでの自立した排泄が行えるように、声掛けを工夫して出来る限り大きな尿失禁や便失禁を減らせるように努めている。	声がけ誘導の人もいるが、車椅子利用の1名を除き、日中、夜間ともトイレを使用している。両ユニットに2名ずつ布パンツの人がおり、他の人はリハビリパンツとパットを併用している。これからも失禁を減らしてトイレで自力排泄できるよう支援に力を入れたいとしている。	

令和 7 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 都南太陽荘（鈴蘭ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食材の工夫、乳製品や水分の摂取、適度な運動も心掛けている。必要に応じて主治医に相談し下剤を処方して貰う事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	利用者1人1人の希望やタイミングに考慮し声掛けを行っている。拒否がある場合は無理強いせずに次の日に再度声掛けを行う工夫をしている。入浴中はリラックスしていただけるようコミュニケーションを密に取るなどしている。	週2、3回昼食後の入浴としている。車椅子の1名は2名で介助し、シャワー浴になっている。背中洗いや洗髪の手伝いなど、一部介助と見守りによる支援を行っている。本人のペースでゆとりを持って入浴してもらうようにしており、おしゃべりを通じ、職員とのコミュニケーションを深める時間にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中に傾眠傾向のある方は夜の睡眠に支障のない程度に臥床していただいている。室内の温度、湿度は季節に合わせて、利用者1人1人に声掛けを行い、快適に過ごせるよう調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬を防ぐ為、名前、日付、時間帯について必ず勤務している職員同士で確認を行っている。通院の記録や内服薬の情報を共有し、薬の効果はどうか、副作用がないか等日々の様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物の干し方とか食器拭き等のお手伝いをするなどの役割があることで、利用者様が共生、協働出来るように努めている。また、お手伝い後の感謝の気持ちを伝える事を忘れずに行っている。1人1人の得意な事を把握し活動を促している。		

令和 7 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 都南太陽荘（鈴蘭ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候や利用者様の体調、職員体制が整っている時は気分転換を兼ねてドライブで外の景色を眺めて四季を感じていただく事もしている。必要に応じてご家族様にも相談に添えられるよう努めている。	欠員後、職員を補充できずにおり、両ユニットとも、日常的な外出の機会がコロナ禍前に比べ少なくなっている。お花見や紅葉の時期のドライブは実施している。家族の協力も得ながら、外出の機会を多く設けられるようにしたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者様の希望があった場合は、ご家族にその旨をお伝えし、ご理解、ご協力のもと所持していただくが現在は殆どの利用者様の所持金は事務所の金庫でお小遣いとして預かっていて、トラブルが起きないよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様に了解を頂き、いつでも電話対応が出来るように、また、手紙についてもご本人、ご家族様へお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室入口やホール内の飾りつけは季節感を取り入れたり、明るい分かりやすい飾りにしている。居室の入口や自席にも名前テープを貼り分かりやすい様にしており、テーブル毎に使用しやすい様にゴミ箱を配置している。	天窓からの陽光で明るく、清潔な共用空間になっており、スタッフルームやキッチンを挟んで、両ユニットが向い合せになっており、自由に訪問することができる。それぞれのホールには、4脚のテーブルにカラフルな椅子が配置され、利用者は定位置でゆったりと過ごしている。利用者は、玄関前のポーチの両側の家庭菜園で野菜づくりを行ったり、ホールや廊下に職員と一緒に季節ごとにバージョンを変えた飾りつけを行って、楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室内で過ごされる時間も大切にし、ホール内でも自席だけに限らず自由に移動して頂き、気分転換でソファーで横になったり会話や作業が落ち着いて楽しく出来る空間作りを心掛けている。		

令和 7 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 都南太陽荘（鈴蘭ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様の持ち物にはすべて名前を記入しご家族様と相談しながら馴染みのあるものを使用したり飾ったり使いやすいものを使用していただいている。	ベッド、クローゼット、さらにクローゼットの隣には自由にセットを変えられる4、5段の整理棚が備え付けられ、利用者は、それぞれ持ち込みの写真や小物、作品等を飾り、自分の好みに合った部屋づくりを工夫している。自室の掃除を職員と一緒に行っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様の身体の状態や身体能力、体調等を把握し、個々に合った福祉用具を使用している。利用者様に分かる表記や表現、文字の大きさにも配慮をしている。屋内環境については安全、円滑に使用出来る様、点検、清潔保持に心掛けている。		